

- ・問題の作成上、一部省略した部分や、表現・表記を改めた部分がある。
- ・字数制限は、句読点、記号を含むものとする。
- ・答はすべて解答用紙に記入すること。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自然保護、環境問題、エコロジー、あるいは持続可能性——総じて地球環境問題と呼ばれるような出来事を、意識せざるをえない時代に私たちは暮らしています。きっと何かがあるに達しつつあることを多くの人が感じているのではないのでしょうか。この場合、限界というのはエネルギー問題に代表される自然資源の限界かも知れません。また、地球温暖化は私たちが暮らす環境を大きく変えてしまう可能性があります。あるいは、近代化や都市化、それを可能にした高度産業社会の仕組み。これらが自然の消費という観点から見てきわめて困難な局面に至りつつあるということかも知れません。

したがって、私たちは現在の日常生活を生きながらも、何かがある、あるいはどこかが狂いを生じているような感覚を持ち始めています。この狂いの感覚、あるいは歪みのような感覚は、おそらく自然を **A** に消費する生活を送りながら、じつさいには自然から遠ざかっている生活への不安な心性がもたらすのかも知れません。自然から遠ざかりつつあるという不安は、かなり **B** な不安として私たちの中にあるのではないのでしょうか。

【自然を過剰に消費する経済生活を前提としながら、自然からの距離を広げるばかりの生活。】私たちが自身が **C** 存在であるにもかかわらず、あたかもそうでないかのような文明生活。これが最近の日本人がよく口にする「癒し」という言葉の出発点なのではないでしょうか。「癒されたい」という願望の根底には、どこかに傷ついた箇所があるというなかば無意識の感覚があるのでしょうか。(W)、私自身は「癒し」という言葉があまり好きではありません。傷つくことを拒んでいるような、あるいは安易に問題を解消するような姿勢を感じるからです。

② いずれにせよ、このような矛盾に不安を覚えないわけにはいきません。(X)、私たちは人類史上かつてないような暮らしを手に入れています。が、同時に何かを確実に失いつつある不安から解放されません。その兆候が狂いや歪みの感覚として意識されるのではないのでしょうか。こういう不安を抱いたひとは **D** にも少なくありません。代表的な人物の一人が、ヘンリー・D・ソロー(Henry D.Thoreau, 1817~1862)という19世紀アメリカの作家です。ウォールデン・ポンドという池のそばで二年二ヶ月独居生活を経験した記録であるエッセイ集『ウォールデン』(一八五四年)は、自然保護や環境保護のシンボウのバイブルと呼ばれています。一五〇年も前の作品ですが、そこにもやはり、自然と人間の関係はこのままでいいのだろうかという問いと不安が充ち満ちています。

※3 このソローの『ウォールデン』こそ、ネイチャーライティングのソであり、原型であるといわれています。実体験に基づいたノンフィクション・エッセイであること、したがって、語り手が作者自身であること、自然観察と文明批評をミックスさせていること、特定の場所に居を据えて、四季の循環を語りの枠組みにしていること、語り手と周囲の自然との交感を語ること、などが、『ウォールデン』の主要要素ですが、こうした要素を文学のある形式、(Y)ネイチャーライティングとして完成させたのがソローという作家なのです。

受験番号

ソロー以降、このネイチャーライティングというジャンルは、アメリカ文学の中のマイナーなデントウとして二〇世紀まで引き継がれました。かなりマイナーであったことはたしかで、このジャンルをまともに研究しようという奇特な学者は少なく、文学研究の分野では長いあいだ、完全に無視されてきたといってもいいでしょう。<sup>e</sup>

ところが、アメリカで一九八〇年代後半あたりからキウウゲキに注目を浴びるようになります。それまでなかば忘れ去られていたにもかかわらず、突然、まじめな研究対象として浮上してきたのです。(Z)、こういう文学に光が当たるようになったのは、環境問題への危機感の広がりが背景にあるといつて間違いないでしょう。

(二)自然を感じるころころ ネイチャーライティング入門 野田研二

※1 局面：物事が直面している事態・情勢。

※2 バイブル：聖書のことを指すが、ここではそれぞれの分野で最も信頼されているものという意味。

※3 ネイチャーライティング：自然について語るノンフィクション形式のエッセイのこと。

※4 奇特：特にすぐれてめずらしいこと。

問一 —— a s e のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 

A
---

D
---

 にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 歴史的      イ 根底的      ウ 徹底的      エ 自然的

問三 (W) ( ) (Z) にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たしかに      イ おそらく      ウ つまり      エ もつとも

問四 —— ①「きわめて困難な局面」とありますが、何がこうなっていると述べていますか。文中から三つ、それぞれ五字以上十字以内でぬき出しなさい。

問五 —— ②「このような矛盾」が指す内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 持続可能性を意識せざるをえない一方で、自然を消費する生活を送っていること。

イ 人類史上かつてない豊かな暮らしを送りながら、「癒されたい」という願望を持っていること。

ウ 自然を消費する生活を送りながら、自然との距離は広がっていること。

エ 「癒されたい」という願望を持ちながら、安易に問題を解消しようとする姿勢のこと。

問六 —— ③「完全に無視されてきた」とありますが、その後どうなったと筆者は述べていますか。理由も合わせて答えなさい。

問七 **【自然を過剰に消費する経済生活を前提としながら、自然からの距離を広げるばかりの生活】**とありますが、どのような生活のことを指していると思いますか。具体的に説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

十一歳さいの夏休み、仕事で一カ月ヨーロッパを回っていた父親から、お土産みやげに万年筆をもらった。銀色で細身の、スイス製の万年筆だった。

キャップを取ると、磨みがき込まれた流線型のペン先が現われ、それは見ていられるだけでも胸むねが高鳴るほどに美しく、持ち手のウラガワにはその曲線によく似合う筆記体で、私のイニシャルYHが彫ほってあった。

おもちゃ以外のお土産をもらうのは生まれて初めてだったし、まわりで万年筆を使っている子など一人もいなかったから、自分が **A** 大人になったような気がした。この万年筆さえ手にしていれば、何か特別な力を発揮できると信じた。

私はいつどんな時も、書きたくて書きたくてたまらなくなった。国語の漢字練習帳がいるからと母に嘘うそをつき、お金をもらって大学ノートを買った。学校から帰るとランドセルを置き、真つすぐ机の前に向かってとにかく万年筆のキャップを外bした。

いざとなって、自分が何を書くつもりなのか、ちっとも考えていないことに気づいたが、私はひるまなかった。そんなことは大した問題とは思えなかった。インクがしみ出してくる瞬間しゅんかんや、紙とペンがこすれ合う音や、野線けいせんの間を埋うめてゆく文字の連なりの方が、ずっと大事なのだった。

大人たちはすぐに、娘むすめが **B** 夢中になって書いていると気づいたが、必要以上にかんしゅうはしなかった。 **C** 机の前で書き物をしているのだから、それは勉強、例えば漢字の書き取りのようなものに違ちがいがないと思ひ込んだらしい。

スリッパをはいて階段を登ってはいけなとか、お風呂ふろに入った後は冷たいものを飲んではいけなとか、あの頃ころ課せられていた多くの禁止事項じしじょうの中に「書き物」が加えられなかった代わりに、大人たちは誰だれも書かれた内容についてはギョウミcを示さなかった。どうせ自分たちの知っている漢字ばかりなんだから、という訳だ。

私はまず **D**、自分の好きな本の一節を書き写してみた。『ファーブル昆虫記』のフンコロガシの章。『太陽の戦士』の出だしのところ。『アンデルセン童話集』から『ヒナギク』と『赤いくつ』。アン・シャリーdがロウドクする詩。『恐竜図鑑』のプレアノドンの項。『世界のお菓子』、トライフルとマカロンの作り方。……

想像したよりずっとわくわくする作業だった。たとえ自分が考えた言葉ではないにしても、それらが私の指先すを擦り抜ぬけて目の前に現れた途端とたん、いとおいしい気持ちに満たされた。

言葉たちはみんな私の味方だ。あやふやなもの、じれったいもの、臆病おくびょうなもの、何でもすべて形に変えてくれる。ブルーブラックのインクで縁取ふちられた、言葉という形に。

そしてふと気がついて手を休めると、ノート一面びっしり文字で埋めつくされている。ついさっきまでただの白い紙だったページに、意味が与えられている。しかもそれを授けたのは自分自身なのだ。

私は疲労感ひろうかんと優越感ゆうえつかんの両方に浸りながらページを撫なで付けた。まるで世界のかくされた法則を、手に入れたかのような気分だった。

※3 「書き物」に対する態度が、他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。かんしゅうしない点については同じだが、彼女

は E この作業を、勉強とは違う種類のものとして認めていた。ケイイさえ払<sup>はら</sup>っていたと言ってもいい。

子供部屋やダイニングテーブルで作業に熱中している私を見つけると、一瞬キリコさんは立ち止まり、姿勢をただし、邪魔しないように F 通り過ぎた。あるいはおやつを運んでくる時は、G ノートの中身に目をやって盗<sup>ぬす</sup>み見していると誤解されないよう、気を使っているのが分かった。自分の手元に視線を落とし、一切声は掛<sup>か</sup>けず、ノートからできるだけ遠いところにジュースを置いた。コップに付いた水滴<sup>すいてみ</sup>で、ページが濡<sup>ぬ</sup>れてはいけないと思ったからだろう。

やがて私は他人の文章を書き写すだけでは満足できなくなり、作文とも日記ともお話ともつかないものを書き付けるようになった。クラスメイト全員の人物評と先生の悪口、一週間の食事メニュー、百万円あったら買いたい品物のリスト、テレビ漫画<sup>まんが</sup>の予想ストーリー、自分の生い立ち・みなしご編、無人島への架空<sup>かくう</sup>の旅行記。とにかく、ありとあらゆるものだった。

『キリコさんの失敗』 「はじめての文学」から 小川洋子

※1 流線型：魚のように全体が細長く、先が丸く、後ろがとがった形。気体や液体の抵抗<sup>ていこう</sup>が最も小さい。

※2 アン・シャリー：モンゴメリー作「赤毛のアン」の主人公のこと。

※3 キリコさん：主人公の家で働くお手伝いさんのこと。

問一 —— a s e のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 A G にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 明らかに      イ 一足飛びに      ウ 手始めに      エ 不用意に      オ 何やら      カ とにかく  
キ 注意を払いながら

問三 「私」の「書き物」に対する大人たちの態度を比べると、キリコさんと他の大人の間には共通する点と異なる点があります。

1 共通する点を文中から十字以内でぬき出しなさい。

2 異なる点を、文中の言葉を用いて説明しなさい。

問四 —— ① 「何か特別な力を発揮できると信じた」とありますが、「書き物」をするようになって「私」は「特別な力」をどのように感じていましたか。文中から二十七字でぬき出しなさい。

問五 —— ② 「そんなこと」とはどんなことですか。文中から二十五字前後でぬき出しなさい。

問六 —— ③ 「いとおいしい気持ちに満たされた」のはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が考えた言葉でなくても、それらにはさまざまな意味が込められていることがわかるから。

イ さまざまな意味が与えられた言葉を、文字として目の前に出現させたのは自分だから。

ウ 多くの禁止事項が課せられる「私」にとって、自分で書いた言葉は自分の味方だと思えたから。

エ 一面がびっしりと文字で埋めつくされたノートを見て、疲労感と優越感に浸ることができるから。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の空白部に適切な熟語を後から選び、漢字に直しなさい。

1 少数の意見も（ ）して決める。

キチヨウ      ソンチヨウ      チヨウサ      チヨウフク

2 好きなタレントと会えて、思わず（ ）してしまった。

コウブン      ブンカツ      コツカク      コウハク

3 （ ）な作家にサインをもらった。

サイシン      センデン      チヨメイ      アツカン

4 大会で日本新記録を（ ）する。

カイカク      チュウリツ      ハンエイ      ジュリツ

問二 次の語句を並べかえて、一文を作りなさい。

1 沿って    木    を    サクラ    の    川    が    いる    若葉    に    広げて

2 食べた    と    おいしい    弟    は    おはぎ    とても    は    いっしょに

3 空気    降った    いた    が    町    は    すんで    雨    あと    の



一

問一	e 急激	a いた	b 思想	c 祖	d 伝統
----	------	------	------	-----	------

受験番号
------

問二	A ウ	B イ	C エ	D ア
----	-----	-----	-----	-----

問三	w エ	X ア	Y ウ	Z イ
----	-----	-----	-----	-----

問四	高度産業社会の仕組み	自然資源の限界
----	------------	---------

地球温暖化
-------

問五	ウ
----	---

問六 環境問題への危機感の広がり背景に、一九八〇年代後半あたりから、急激に注目を浴びるようになった。

問七 石油を大量に消費して、温度管理のされた部屋で過ごす生活。など

二

問一	a 裏側	b はず	c 興味	d 朗読	e 敬意		
問二	A イ	B オ	C カ	D ウ	E ア	F キ	G エ

問三 2 キリコさんは勉学とは違う種類のものとして認めていたが、他の大人は勉学と思い込んでいた。

問四	か の よ う な 気 分	ま る で 世 界 の か く さ れ た 法 則 を 、 手 に 入 れ た
----	---------------	---

問五	て い な い こ と	自 分 が 何 を 書 く つ も り な の か 、 ち つ と も 考 え
----	-------------	---

問六	イ
----	---

三

問一	1 尊重	2 興奮	3 著名	4 樹立
----	------	------	------	------

問二 1 川に沿ってサクラの木が若葉を広げている。(サクラの木が川に沿って若葉を広げている。)  
 2 弟といっしょに食べたおはぎはとてもおいしい。  
 3 雨が降ったあと、町の空気はすんでいた。